

川内原発再稼働に抗議する！

本日午前、九州電力は川内原発1号機を再稼働しました。新基準第1号となる再稼働です。多くの反対者の声を無視した強行再稼働に、断固抗議します。

川内原発は、最大級の活断層である中央構造線、そして、火山（桜島）の近くに建設されています。地震や噴火の危険にさらされているのです。九州電力は「噴火の前兆があった場合、運転を中止する」との見解を示していますが、火山学者でつくる規制委の検討会は「噴火の時期や規模を正確に予知する技術はない」との見解を盛り込んだ提言をまとめました。

安倍政権は、「新基準は世界一厳しい」と豪語していますが、世界では住民の避難計画は勿論、メルトダウン事故を想定した原子炉内へのコアキャッチャー設置が常識

です。世界一厳しい基準であるはずの日本の基準には、それらは義務付けされていません。川内市が昨年11月に策定した、原子力防災・避難計画については、「詳細な内容まで見ると、十分ではない」とし、今後の見直しが必要との考えを明らかにしています。つまり、市が不備を認めているのです。

JR東海労は、直ちに再稼働の中止を求めます。

◀ 2015年8月11日『静岡新聞』

不安拭えぬまま起動



川内原発の正門前で再稼働に反対して盛り込む人々

川内原発1号機

過酷事故への国民の不安を拭えぬまま、原発が動き出した。11日、九州電力川内原発1号機「経済が活気づくと歓迎の声の一方、原発現場では抗議の盛り込みも、警察官が警戒を怠らぬ中、再稼働やめろと怒号が飛んだ。東電電力福島第1原発事故で避難を続ける福島の住民は、胸が痛むと心を痛めて、安全対策は万全なのか、万の場合の避難計画は機能するのか、想定外は「一度と許されぬ」。

「見切り発車」怒号も 経済に活気歓迎も

九州電力川内原発1号機「経済が活気づくと歓迎の声の一方、原発現場では抗議の盛り込みも、警察官が警戒を怠らぬ中、再稼働やめろと怒号が飛んだ。東電電力福島第1原発事故で避難を続ける福島の住民は、胸が痛むと心を痛めて、安全対策は万全なのか、万の場合の避難計画は機能するのか、想定外は「一度と許されぬ」。

九州電力川内原発1号機「経済が活気づくと歓迎の声の一方、原発現場では抗議の盛り込みも、警察官が警戒を怠らぬ中、再稼働やめろと怒号が飛んだ。東電電力福島第1原発事故で避難を続ける福島の住民は、胸が痛むと心を痛めて、安全対策は万全なのか、万の場合の避難計画は機能するのか、想定外は「一度と許されぬ」。